

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000530		
法人名	医療法人 新清会		
事業所名	グループホーム あしきた		
所在地	熊本県葦北郡芦北町芦北2015-6		
自己評価作成日	令和4年11月15日	評価結果市町村受理日	令和5年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺には役場、警察署、消防署、セブンイレブン、JA集荷場等があり立地条件が良いです。日当たりが大変良く居室や居間には一年を通して、暖かな陽が降り注ぎます。気候の良い日には庭に出てのお茶会やランチ、日光浴などを楽しむ事が出来ます。コロナ禍で今までの様な外出は難しいですが、人ごみを避けてのドライブで様々な景色を見てまわったり、ホーム内でも楽しんで頂ける様なイベントの定期的な開催、利用者様お一人お一人に合わせたレクリエーション等を行っています。利用者様に楽しんで頂けるよう、職員全員で知恵を絞り様々な工夫をしています。職員は常に利用者様が安心・安楽に、また、いつも笑顔で過ごしていただけるように、日々介護を行っています。職員全員が一致団結し、これからも「あしきた」理念の下、人間としての尊厳を尊重し、個性・主体性を尊重して、利用者様

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「親しみのもてるホーム作り」を理念に掲げている。入居者と職員の関わりも多く、互いを思いやりながら会話の多いホームである。開所時から地域商店を活用しながら職員の手作り料理は継続され、行事と季節料理双方を入居者に楽しんでもらうよう工夫している。入居者も季節の団子や饅頭づくりなど出番が用意されており、腕を振るわれている。感染症の状況を見ながら地域資源を活用したドライブ外出や温かな春先などは庭でのランチやお茶を楽しみ、リビングを活用したミニ運動会などコロナ禍にあっても自分たちでできることを工夫している。職員の離職も殆どなく馴染みの職員によるケアも入居者や家族にとっても安心するところとなっている。経年にあってもホーム内は職員の手で小まめに手入れされ、入居者が気持ちよく過ごせる空間を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に貼ってある理念を各々読んでいます。具体的なケアについてはカンファレンスを開催しながら意見の統一を図っています。地域に密着したホームの理念を作り取り組んでいます。	職員は親しみのもてるホーム作りに焦点を当て、入居者や家族との関係、地域密着型事業所としてのホームのありかたについて申し送りやカンファレンスを通じて共有している。入居者との関係性について親しい中にも節度を持ち、馴れ合いにならないよう機会あるごとに自己を振り返るようにしている。毎月の月目標は職員間で話し合い、入居者支援に反映している。	長期化するコロナ感染症への対応から、自ずと月目標も感染対策に関わるものとなっているが、3年の時を経ており感染症への対策は継続しながらも、別の視点で目標を立てることも検討したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者、職員は近隣の方への挨拶は常に心がけている。また毎月のホームの様子を「あしきた通信」を通じて知って頂いています。	近隣住民との普段の挨拶や、現在は中止されているもののホーム独自で地域の清掃を行っている。広報誌「あしきた通信」を地区長に依頼して回覧してもらい情報発信の機会としており、これまでにホームの取組に対する住民からの温かい声が寄せられている。食材は地元商店から購入し、以前ホーム前にあった地元スーパーの名前もしっかりと覚えておられるなど、入居者には馴染みの地である。	「あしきた通信」が地域とをつなぐ情報発信の手段として活かされており、今後も個人情報などに配慮しながら継続されることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、今現在、行事は行われていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、今現在会議は開催していませんが、書類は作成し、配布しています。	運営推進会議は書式に則り、ホームの活動状況などに毎月発行する広報誌を添えて参加メンバーである行政や消防署、地域代表者などに手渡しにて配布している。管理者は手渡す際に意見や要望を引き出すようにしているが、直接開催でない事から発言は少ないようである。	会議資料には事故などについても報告しているが、身体拘束については必要性がある時のみ伝えており、今後は拘束の実態のあるなしにかかわらず、該当事例がなかったことや、研修会の実施状況などを伝える事で、ホームの姿勢を発信し、更なる信頼につなげていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報提供書等も役場に申請し頂いています。その他様々な申請書類等で分からない事があればその都度尋ね、教えて頂いたりしています。	行政機関が徒歩圏内にあり、運営推進会議資料の手渡しや、必要に応じて直接担当者のもとを訪れ、質問や相談事に応じてもらいながら良好な関係を継続している。認定調査は玄関内で対応し、職員が入居者の現状を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会から配布される身体拘束に関する資料に職員全員が目を通して共通認識を図っています。利用者様1人1人の状態を把握することで自由な生活を支援しています。	法人の身体拘束委員会の資料内容を共通認識とし、権利擁護の研修会にも参加している。職員は言葉使いには十分注意するように配慮しているものの、方言が入居者にとって慣れ親しんだ表現方法であり、入居者に理解の得られる言葉を使い、会話も必ずしも敬語だけではないことを家族や運営推進会議で報告している。センサーマットの使用については担当医の許可を得て、家族の了承のもと利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の通達には必ず目を通し、虐待がないよう注意し防止に努めています。気付かないうちに…がないよう、職員全員が意識を持って取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会、町から等の通達には必ず目を通し、研修会への参加を通じ職員全員理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書を説明し、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実施などについて詳しく説明しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とはいつでも話せる関係であり、意見、不満等を聞き、必ず職員で話し合い運営に反映させています。またご家族とは利用料金支払い時や電話、LINEでコミュニケーションをとり意見や要望を聞いています。	職員と入居者の距離が近く、リビングを中心に普段から会話を楽しんでいるようである。不満は口にされないものの、入居者同士の席のトラブルなどにはパーテンションでさりげなく工夫するようにしている。家族は利用料を直接持参されており、訪問時には忌憚のない意見を求めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月業務検討会を開催して職員が意見や提案を発信し、ホームの運営に反映させています。	月の業務検討会は業務改善に向けた話し合いや、入居者の日々の様子や状態変化時に気付きを出し合い、ケアカンファレンスを兼ねた会議となっている。意見を出しやすい環境の整備や産休、産後の福利厚生確立、資格取得の後押しなど職員が安心して働ける体制作りにも力を入れている。職員移動は便りで家族に伝えており、離職の少ない職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	産休産後福利厚生が確立しており、継続して働ける事で離職防止になっている。職員の資格取得に向けた支援を行い取得後は職場内で活かせるような労働環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町主催の研修会等Zoomを活用し、参加しています。それにより、新しい知識を得ています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの城南地区ブロック会議への参加をしています。Zoomを使った研修会や交流会への参加も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が利用者様の主訴や不安を把握し、統一した対応を行います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へ連絡する際、心配事や困りごとがないか尋ね、ゆっくりと相談できる様になっています。話を聞くことで次の段階の相談へ繋がっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族から相談があった時には職員で話し合い状況を確認しながら改善に向けた支援の提案をし、必要なサービスに繋げるようにしています。場合によっては法人の支援相談員に相談しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側という意識は持たず利用者様が出来る事はして頂き、出来ない所を助ける。このことを大切にしながら利用者様と職員が共同し和やかな生活が出来る様、場面作りや声掛けを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態を報告、相談しています。本人様の希望等をご家族に話すようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望される場所へドライブに出掛ける等行っています。コロナ禍とあって、馴染の方達との直接の面会は難しいですが、窓越しやオンライン面会等で関係継続を支援しています。	入居者に馴染みの行事(正月の初詣やおせち料理、冬至のかぼちゃ料理や柚子湯の提供)などには季節を祝いながら手作り料理でひと時を過ごすようにしている。感染症の状況をみながらドライブ先にはいくつかの選択肢を投げかけ、意見を引き出しながら地域資源を活用して出かけている。感染症が落ち着いた時期には一時帰宅も実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に利用者様の心身の状態や気分を把握し、感情等の変化を見逃さないよう注意し見守っています。毎日のおやつや食事の時間など職員も一緒に多くの会話を持つように努め利用者様同士の関係が円滑にいくように働きかけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続が損なわれないように、生活環境や注意が必要な点について情報提供し、きめ細やかな連携を心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様からの希望や意向は職員全員が把握・共有し利用者様本位のケアに反映させています。	職員は入居者との普段の関わりから要望を引き出し、他者の中が苦手な方には一人になられた時にゆっくり話を聞き、カンファレンスで共有して支援に反映させている。会話の多いホームであり、入居者は自らの思いを口にされており、家族の面会時や電話の際には入居者の思いを伝えながら家族の意向を尋ねるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの話や前施設からの看護サマリー等にて経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝健康チェックを行い、利用者様の健康把握に努めています。体調の変化には職員が常に注意しています。特別に体調管理が必要な方には個別にチェック行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様等に要望を尋ね、その後職員全員でカンファレンスを行い介護計画を立てているので職員の意見が反映されたプランが出来ています。	入居者・家族の意向を尊重し、ケアカンファレンスでの職員意見を反映したプランを立案している。カンファレンスでの職員の気づきはプランに活かされており、3か月ごとに評価し現状に即した内容としている。入居者の身体状況の変化は日々のバイタルチェックや体重、食事量の推移、動作などから見極め、個別のプランに注意点を盛り込みながら、担当者会議で主治医の助言を仰いでいる。プランは利用料を持参された時などに家族に説明を行い、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護保険の更新時期、半年の定期的な見直しには必ずご家族の意向や利用者様の要望などを状況及び今の現状に即した見直しを行っています。利用者様の情報は常に職員全員で共有し介護の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、一人一人の満足度を高める様努力をしています。母体が病院の為、医療との連携により、受診、入院、病気等の早期発見に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域での暮らしを続けられるよう、消防署、区長、民生委員の方々と連携をとっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医院がかかりつけです。その為日常的な受診や緊急時対応、夜間の往診など適切な医療が提供されています。利用者様の状態報告は常にホームの医師である理事長に相談報告しています。3ヶ月毎の定期検診も実施しています。	入居時に母体医療機関について説明を行い、了承のもと全員がかかりつけ医となっている。受診はコロナ感染症に配慮し定期受診と、必要時に外来状況の確認の後出かけている。専門医については家族の対応を依頼し、結果を共有している。歯科についても必要時に家族による対応が行われているが、専門医受診を含め対応が難しい場合はホームでも柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師と常に連携をとり、相談等しています。月2回の訪問看護にも利用者様の状態報告をし、早期発見に取り組んでいます。24時眼対応にて連携可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の医院がかかりつけの為、常に連絡を取り合っています。利用者様が医院に入院、退院される時も早めに連絡し合う等連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には必ず、ご家族の意向を尋ねています。状態変化時にもご家族と相談し、かかりつけ医との連携を図っています。利用者様やご家族の意向を踏まえ、随時意思確認をしながら取り組んでいます。	入居時に看取り指針をもとに説明を行い、急変時や必要に応じて再度家族の意向を確認している。入居当初はホームでの看取りを話されているが、これまで事例はなく、重度化した場合、医療の継続を望まれ転院の後、医療機関で最終を迎えられている。管理者は今後も日頃から本人・家族の意向に沿った支援が出来る様努めていきたいとしている。	今年度、長くホームで生活されていた入居者が予兆もなく突然亡くなられており、職員にとってつらい経験であったようである。高齢者は特にいつ何が起こってもという状況の中で、職員のメンタル面や家族への配慮などを含んだ終末期支援に関するホーム独自の研修会の機会は必要と思われる。取組に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に応急手当や初期対応の訓練を行っています。また緊急時マニュアルも作成しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル等作成し、年2回昼間と夜間想定で利用者様と一緒に避難訓練を行っています。(消防署へ報告書を提出します)また、年1回水害等に備えた避難訓練も実施し、町へ報告書を提出しています。	今年度は火災想定でホーム独自の訓練をマニュアルをもとに7月(昼想定)、11月(夜間想定)に実施している。避難誘導者の誘導順位など疑問点があればその都度、消防署に相談し指導やアドバイスを受けている。豪雨被害を受けた地域でもあり、役場主導の風水害訓練を年1回実施しており、報告書の提出を行っている。災害備蓄はその都度必要な品を確認しており、火元をはじめとした安全チェックは毎日実施している。	行政をはじめ消防署が徒歩圏内にあることは心強く、引き続き協力体制の構築が期待される。今後はコロナ感染症の状況を見ながら、家族を含めた運営推進会議を活用した訓練の開催に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様1人1人の事を把握し、利用者様が分かりやすく親しみやすい方言を交えた話し方で会話をしています。居室に入る時は必ずノックするか声掛けしています。また居室の入り口には視覚的プライバシー保護の為に暖簾を設置しています。個人情報の守秘義務は職員全員が十分に心がけています。	入居者の尊重やプライバシーに配慮した支援について、日頃から共有を図りながら安心した時間を提供できる様努力している。呼称は苗字や下の名など希望や反応を見ながら対応しており、本人や家族にも了承を得ている。現在は入居者、職員共に女性であり、同性介助により日常が支援されている。それ故管理者は馴れ合いや方言にも十分配慮することを伝えており、方言を取り入れながら入居者との微笑ましいやり取りの声が聞かれた	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などは良く聞いて本人様が納得されるよう説明し支援しています。利用者様の状態に合わせ本人が応えやすいよう、話をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが、きっちりとした時間は決めていません。利用者様のペースや体調を考慮しながらお気持ちを尊重した対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や就寝前には化粧水と乳液を使用される方がいらっしゃいます。自己決定出来る方にはなるべく洋服などご自分で選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を入荷した時は(らっきょう、つわ等)皮むきを手伝って頂いたり、行事で団子やまんじゅう作りを一緒に行ったりしています。利用者様の嚥下状態等に合わせ、刻みや普通食、とろみ使用と、提供の仕方も工夫されています。	献立は料理番組やコマーシャルなどテレビを見ながら出てきた希望や季節感を取り入れながら立てている。開設時から食材購入や調理も職員が行っており、入居者も野菜の皮むきや茶碗洗い、まんじゅうやおはぎをはじめおやつ作りなど、多くの出番が用意されている。提供するタイミングも料理に応じて温かいもの、冷たいものを出来上がり次第食べてもらっている。飲み物やソースも種類や使用するしないを選択してもらうなど、食事を楽しくおいしく食べる配慮がうかがえる。また、食事中も見たいテレビがあればつけており、自宅と同じような環境を心がけている。	職員も同じものを摂ることで味や量、入居者の思いを共有できており、職員も「栄養満点で楽しみ！」と語っている。変わらぬ食への取組に期待したい。また、広報紙に行事食に限らず普段の食事メニューを掲載することで家族も安心につながると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体調と1日の摂取量は把握しており、食事量も個々に合わせて確認し、利用者様の好きな食べ物や食べやすい物を提供しています。また、食物アレルギーの方に関しては原因となる食材を除いて提供しています。水分量が足りないかたにはご家族にも協力していただき、その方が好まれる味の飲料ゼリー等を利用したりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは洗面所にて行い、自力で出来る方には見守りや声掛けを行い、難しい方には一部介助にて対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしながら、利用者様の状態に合わせ、パットも使用しています。自尊心に配慮した対応を心掛けています。	個々の身体状況に応じて自立の継続や声掛け・誘導が行われている。日中はトイレでの排泄を基本とし、リハビリパンツや布パンツ（パット併用もあり）で過ごされている。夜間のみテープ式オムツに替える方もおられるが、ポータブルトイレは昼夜ともに使用される方はおられない。トイレは3か所設けられ、常に換気や汚れなどを確認しており、それぞれが慣れた場所を使用されている。排泄用品は適切なものを職員間で話し合い、ホームでの準備や家族による購入でも良いことを入居時に伝えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、職員全員で把握しています。水分補給や繊維質の多い食材を使った料理を提供し、運動も促しています。Dr指示にて下剤服用の方もおられますがなるべく自然排便を促す工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望や体調を考慮しながらそれぞれに応じて入浴を行っています。希望に合わせた温度調節にも気を付けています。	週3～4回の入浴を午後から中心に支援している。湯温に関して「あつがながよか！」「ぬるがながよか！」と、要望されており、職員は好みの湯温になるよう調整し、入浴を楽しんでもらうようにしている。季節湯も継続しており、全員が楽しめるよう2日間実施し、菖蒲は購入しているが、柚子は職員が持ち寄り新鮮な香りを楽しめている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に応じて対応していますが、なるべく日中の活動と促して生活リズムを整えるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイルに綴り、職員が内容を把握出来るようにしています。利用者様に状態変化がみられた時にはかかりつけ医と連携をとり、状態に合わせた薬を処方してもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きな方には洗濯物畳みや草むしり等を頼み、必ずお礼の言葉を伝えるようにしています。またスタッフ付き添いにて庭を散歩したり廊下を歩いたり、レクリエーションでは好みの歌と一緒に歌ったりしています。廊下の先に椅子を設置して気分転換出来る場を設けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍とあって、行ける場所は限られてしまっていますが、天気の良い日には庭に出て外気浴やランチをしたり、季節に応じた外出の機会を設け、ドライブを楽しんで頂けるように努めています。	コロナ禍にあり外出支援は難しい時期もあるが、対策を施し地域資源を活用しながらドライブに出かけている。桜の時期にはお立岬をはじめ、こいのぼり・紫陽花・彼岸花見学、車窓からではあるが三社参りも実現している。また、庭先でのひなたぼっこタイムを設けたり、ピクニック気分でのランチなども楽しんでい。職員と敷地内の草取りも外気に触れながら精を出されている。活動の様子は広報誌で紹介されており、室内にこもりがちになっていない事に家族は感謝されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て少額のお金を持っておられる方もいらっしゃいます。利用者様やご家族から預かったお金は事務所で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて電話は自由にかけていただいています。ご家族からの取り次ぎも出来ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	真夏には窓の外に寒冷紗をかけ、直射日光ではなく心地よい日差しを感じれるように、冬には寒冷紗を外し、暖かな日差しを背中に浴びていただけるようにしています。季節物の飾りや、皆様が気に入ってらっしゃる飾りは季節を問わず飾り、いつでも見れるようにしています。	2年前の大水害後に内装などを中心に改修がおこなわれている。玄関内には面会コーナーが設けられているが、パーテーションシートには下げもんなど飾りを施すことで柔らかな雰囲気を作っている。季節ごとの壁面をはじめ、手芸が得意な職員が講師役となり苔玉作りに入居者も挑戦しており、正月飾りとして玄関などホーム内に飾られている。職員は入居者が気持ちよく利用できるよう、洗面台をはじめ清潔に保っており、居室を含め掃き掃除をされる入居者もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に置いてあるソファは利用者様が落ち着いてくつろげるような配置を考え、取り組んでいます。独りになりたそうな方には、皆様からの視線がない場所への誘導等行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族より思い出の品や本人が希望される品を持ち込んで頂き、居心地の良い空間にしています。居室でゆっくり好きなテレビを観て過ごされる方もいらっしゃいます。	改修された居室には性能の良いベッドや整理タンス、クローゼットが備わっている。絵が得意な職員による入居者の似顔絵は表札代わりにともなっている。入居の際、持ち込物品については、普段使用していた物や必要な物をリストアップし、テレビなど具体例をあげながら説明している。又、入居後の状態変化に応じ、持ち込み品を持ち帰ってもらうことや、居室の移動もあることなどを伝えている。テレビを持ち込まれている方も多く、午睡しながら夜遅くまで見る方もおられるなど、寛げる部屋となっていることが伝わってくる。	昼食後希望される方には一時間ほど午睡の時間が持たれている。「もう一枚毛布掛けますか～?」「もうよかですか～?」など、入居者との日常のやり取りが聞かれた。今後も居心地の良い居室となるよう継続して取り組まれることを期待したい。また、面会を控えている家族へ、居室内の状況や職員の取組など安心に繋がる発信に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせた支援を行っています。床にクッションマットを使用したり、移動式の手すりを設置したりと安全に「出来る事」をして頂ける様工夫しています。		